

風評被害に関する消費者意識の実態調査(第15回)
報告書

令和4年3月8日

消費者庁 食品と放射能に関する消費者理解増進チーム

目次

I 調査の概要	2
1 調査の目的	2
2 調査の対象	2
(1) 調査手法	2
(2) 調査項目	2
(3) 調査期間	2
(4) 調査対象者	2
(5) 回収標本数	2
(6) 経年調査に関わる留意点	3
3 結果の集計	3
(1) 集計客体	3
(2) 調査客体数	4
(3) その他	5
II 本調査の結果	6
1 基本項目	6
(1) 放射性物質に関する検査の知識	6
(2) 家庭内における食品購入者の情報	7
(3) 食品産地に関する意識	7
(4) 食品の産地を気にする理由	7
(5) 特に産地に注意している食品	8
(6) 食品を買うことをためらう産地	9
(7) 風評被害を防止するために行うべきこと	9
(8) 放射性物質に対するリスクの捉え方	10
(9) 基本属性に関する事項	11
2 経年推移による結果	12
(1) 食品中の放射性物質の検査に関する知識	12
(2) 食品の産地を気にする度合い	13
(3) 食品の産地を気にする理由	14
(4) 特に産地を気にする食品の種類	15
(5) 購入をためらう食品の産地	17
(6) 放射線における低線量被ばくのリスクの受け止め	18

I 調査の概要

1 調査の目的

被災県の農林水産物等について、消費者が買い控え行動をとっている場合の理由等を継続的に調査し、今後のリスクコミュニケーションでの説明内容を始めとする各般の風評被害対策及び消費者理解の増進に関する取組に役立てることを目的とする。

2 調査の対象

(1) 調査手法

インターネット調査

(2) 調査項目

食品の産地を気にする理由、放射性物質に対するリスクの捉え方、食品中の放射性物質に関する出荷制限等への意識や理解、食品中の放射性物質に関する検査の知識等。

(3) 調査期間

令和4年2月1日(火)～2月7日(月)

(4) 調査対象者

被災地域(岩手県、宮城県、福島県、茨城県)及び被災県産農林水産物の主要仕向先県等(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、兵庫県)に居住する20～60代の男女

(5) 回収標本数

全ての問い合わせに回答した5,176人である。

都府県名	性別	男性					女性					合計
		年齢	20代	30代	40代	50代	60代	年齢	20代	30代	40代	60代
	人数	(n)										
都府県名	岩手県	7	8	8	16	12	7	8	10	13	11	100
	宮城県	14	19	19	20	19	14	18	19	18	19	179
	福島県	12	14	13	15	17	10	14	13	16	20	144
	茨城県	18	26	23	24	26	19	24	22	23	25	230
	埼玉県	44	63	65	55	64	45	59	61	52	64	572
	千葉県	41	54	55	44	54	36	51	51	44	60	490
	東京都	100	126	131	92	97	95	130	120	86	103	1,080
	神奈川県	62	79	87	64	70	58	76	83	61	75	715
	愛知県	50	65	66	52	57	49	60	59	49	60	567
	大阪府	52	69	75	63	74	56	72	77	60	79	677
	兵庫県	31	42	45	38	51	33	44	46	43	49	422
合計		431	565	587	483	541	422	556	561	465	565	5,176

(6) 経年調査に関する留意点

第1～14回までの調査について、調査手法、調査項目、調査対象者、回収標本数は第15回と同様の設定である。調査項目については、震災後時間の経過により、調査目的にそぐわない設問等があること等を考慮し、それまでの継続性を確保しつつ第12回調査から設問数を減じて実施している。

各回の調査時期は以下のとおりである。

- ・第14回：令和3年1月15日（金）～1月19日（火）
- ・第13回：令和2年1月30日（木）～2月4日（火）
- ・第12回：平成31年2月7日（木）～12日（火）
- ・第11回：平成30年2月1日（木）～5日（月）
- ・第10回：平成29年8月24日（木）～28日（月）
- ・第9回：平成29年2月2日（木）～10日（金）
- ・第8回：平成28年8月17日（水）～23日（火）
- ・第7回：平成28年2月4日（木）～9日（火）
- ・第6回：平成27年8月11日（火）～17日（月）
- ・第5回：平成27年2月6日（金）～12日（木）
- ・第4回：平成26年8月25日（月）～31日（日）
- ・第3回：平成26年2月14日（金）～19日（水）
- ・第2回：平成25年8月24日（土）～28日（水）
- ・第1回：平成25年2月14日（木）～15日（金）

また、回収標本の集団設定については以下のとおりである。

- ・第15回、第14回、第13回、第12回、第11回、第10回、第9回の各調査はそれぞれ異なる集団である。
- ・第9回調査の回答者のうち3,307人が第8回からの継続回答者である。
- ・第8回調査と第7回調査は異なる集団である。
- ・第7回調査の回答者のうち3,367人が第6回からの継続回答者である。
- ・第6回調査と第5回調査は異なる集団である。
- ・第5回調査の回答者のうち3,959人が第4回からの継続回答者である。
- ・第4回調査と第3回調査は異なる集団である。
- ・第3回調査の回答者のうち3,413人が第2回からの継続回答者である。
- ・第2回調査と第1回調査は異なる集団である。

3 結果の集計

(1) 集計客体

- ア 調査対象数 5,176 人
- イ 調査実施数 5,176 人

(2) 調査客体数

ア 全体

都府県名	性別	男性					女性					合計
		年齢	20代	30代	40代	50代	60代	年齢	20代	30代	40代	60代
	人数	(n)										
都府県名	岩手県	7	8	8	16	12	7	8	10	13	11	100
	宮城県	14	19	19	20	19	14	18	19	18	19	179
	福島県	12	14	13	15	17	10	14	13	16	20	144
	茨城県	18	26	23	24	26	19	24	22	23	25	230
	埼玉県	44	63	65	55	64	45	59	61	52	64	572
	千葉県	41	54	55	44	54	36	51	51	44	60	490
	東京都	100	126	131	92	97	95	130	120	86	103	1,080
	神奈川県	62	79	87	64	70	58	76	83	61	75	715
	愛知県	50	65	66	52	57	49	60	59	49	60	567
	大阪府	52	69	75	63	74	56	72	77	60	79	677
	兵庫県	31	42	45	38	51	33	44	46	43	49	422
合計		431	565	587	483	541	422	556	561	465	565	5,176

イ 性・年齢別

性年代別	人数(n)	割合(%)
男性 20 代	431	8.3
男性 30 代	565	10.9
男性 40 代	587	11.3
男性 50 代	483	9.3
男性 60 代	541	10.5
女性 20 代	422	8.2
女性 30 代	556	10.7
女性 40 代	561	10.8
女性 50 代	465	9.0
女性 60 代	565	10.9
全体	5,176	100.0

ウ 地域別

居住地別	人数(n)	割合(%)
岩手県	100	1.9
宮城県	179	3.5
福島県	144	2.8
茨城県	230	4.4
埼玉県	572	11.1
千葉県	490	9.5
東京都	1,080	20.9
神奈川県	715	13.8
愛知県	567	11.0
大阪府	677	13.1
兵庫県	422	8.2
全体	5,176	100.0

(3) その他

本調査結果に掲載している数値は小数第2位で四捨五入を行っている。また、割合(%)は、5,176人を分母として算出した。

II 本調査の結果

1 基本項目

(1) 放射性物質に関する検査の知識

「問 食品中の放射性物質の検査の情報について、あなたが知っていることをお答えください。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	基準値を超える食品が確認された市町村では、他の同一品目の食品が出荷・流通・消費されないようにしている	1,178	22.8
2	食品中の放射性物質の検査は東日本の17都県を中心に実施されている	563	10.9
3	原子力災害対策本部のガイドラインに従い、地方公共団体において検査計画が作成され、検査が行われている	765	14.8
4	検査計画に従い地方公共団体が行う検査結果は、厚生労働省のウェブサイトで公表されている	612	11.8
5	放射性セシウムスクリーニング法による検査では、検査結果がスクリーニングレベル(一般的には基準値の1/2(50ベクレル/kg))を超えたものについては、さらに、精度を上げて再検査(ゲルマニウム半導体検出器を用いた確定検査)を行っている	357	6.9
6	地方公共団体が定めた検査計画では、農地の汚染やこれまでの作物の検査結果等が反映されている	620	12.0
7	検査が行われていることを知らない	3,075	59.4
8	その他	77	1.5

(2) 家庭内における食品購入者の情報

「問 あなたの御家庭では、主に食品を買っているのはどなたですか。」(単回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	あなた御自身	3,191	61.6
2	あなた以外の御家族	1,985	38.4

(3) 食品産地に関する意識

「問 あなたは、普段の買物で食品を購入する際に、その食品がどこで生産されたかを気にされますか。」(単回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	気にする	956	18.5
2	どちらかといえば気にする	2,198	42.5
3	どちらかといえば気にしない	1,183	22.9
4	気にしない	665	12.8
5	分からぬ(自分で食品を購入しない方)	174	3.4

(4) 食品の産地を気にする理由

「問 (3)で、普段の買物で食品の生産地を「気にする」、「どちらかといえば気にする」と回答された方にお聞きします。あなたが、その食品がどこで生産されたかを気にされるのは、どのような理由からでしょうか。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	産地によって品質(味)が異なるから	1,401	27.1
2	産地によって鮮度が異なるから	893	17.3
3	産地によって価格が異なるから	901	17.4
4	ブランド価値のある特産品を買いたいから	334	6.5
5	自分が住んでいる地域など、特定の地域の食品を買いたいから	922	17.8
6	食品を買うことにより、その食品の生産地を応援したいから	683	13.2
7	放射性物質の含まれていない食品を買いたいから	578	11.2
8	その他	190	3.7

(5) 特に産地に注意している食品

「問 (4)で、普段の買物で食品の生産地を気にする理由として「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答された方にお聞きします。

あなたが、特に産地に注意している食品を次の選択肢から選んでください。」
(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	米	364	7.0
2	野菜	454	8.8
3	果物	290	5.6
4	卵	193	3.7
5	牛乳	211	4.1
6	牛肉	253	4.9
7	豚肉	250	4.8
8	鶏肉	239	4.6
9	鮮魚貝類	365	7.1
10	きのこ類	235	4.5
11	茶	151	2.9
12	清涼飲料類・酒類	65	1.3
13	加工食品(惣菜・弁当・冷凍食品・お菓子類など)	133	2.6
14	その他の食品	6	0.1

(6) 食品を買うことをためらう産地

「問 (4)で、普段の買物で食品の生産地を気にする理由として「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答された方にお聞きします。あなたが、食品を買うことをためらう産地を次の中から選んでください。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	福島県	335	6.5
2	被災地を中心とした東北（※岩手県、宮城県、福島県）	256	4.9
3	東北全域（※青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）	84	1.6
4	北関東（※茨城県、栃木県、群馬県）	94	1.8
5	東日本全域（※青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、新潟県、静岡県）	66	1.3
6	その他	65	1.3

(7) 風評被害を防止するために行うべきこと

「あなたは、風評被害を防止し、売られている食品を安心して食べるため、どのようなことが行われるとよいと思いますか。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	行政や専門家による科学的、制度的な説明	1,548	29.9
2	それぞれの食品の安全に関する情報提供（検査結果など）	2,384	46.1
3	それぞれの食品の産地や商品の魅力に関する情報提供	1,602	31.0
4	それぞれの食品の安全性に関する情報に触れる機会の増加	1,854	35.8
5	商品に触れる機会の増加（実際に購入できる機会の増加）	1,116	21.6
6	マスメディア等を通じた個別の食品や商品全般についてのPR	1,388	26.8
7	国際的な風評の払拭	1,203	23.2
8	何をやっても安心できるとは思わない	810	15.6
9	その他	77	1.5

(8) 放射性物質に対するリスクの捉え方

「あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど小さな低線量のリスクをどう受け止めますか。」(単回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	基準値以内であっても少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない	639	12.3
2	基準値以内であれば、他の発がん要因(喫煙、毎日3合以上飲酒、痩せすぎなど)と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる	1,893	36.6
3	放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、殊更気にしない	1,136	21.9
4	十分な情報がないため、リスクを考えられない	1,454	28.1
5	その他	54	1.0

(9) 基本属性に関する事項

ア 職業

「問 あなたの御職業をお答えください。」(単回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	会社員(管理職以外の正社員)	1,662	32.1
2	会社員(管理職)	356	6.9
3	会社役員、経営者	104	2.0
4	派遣、契約社員	307	5.9
5	公務員、非営利団体職員	254	4.9
6	教職員、講師	95	1.8
7	医療専門職(医師、看護師、療法士など)	158	3.1
8	その他専門職(弁護士、会計士、税理士など)	28	0.5
9	農林業	11	0.2
10	漁業	3	0.1
11	自営業(農林漁業以外)	194	3.7
12	SOHO	36	0.7
13	パート、アルバイト、フリーター	649	12.5
14	内職	12	0.2
15	専業主婦／主夫	667	12.9
16	大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生	130	2.5
17	無職、定年退職	407	7.9
18	その他の職業	103	2.0

イ 同居者の内訳

「問 あなた又はあなたと同居している御家族について、お答えください。」(複数回答)

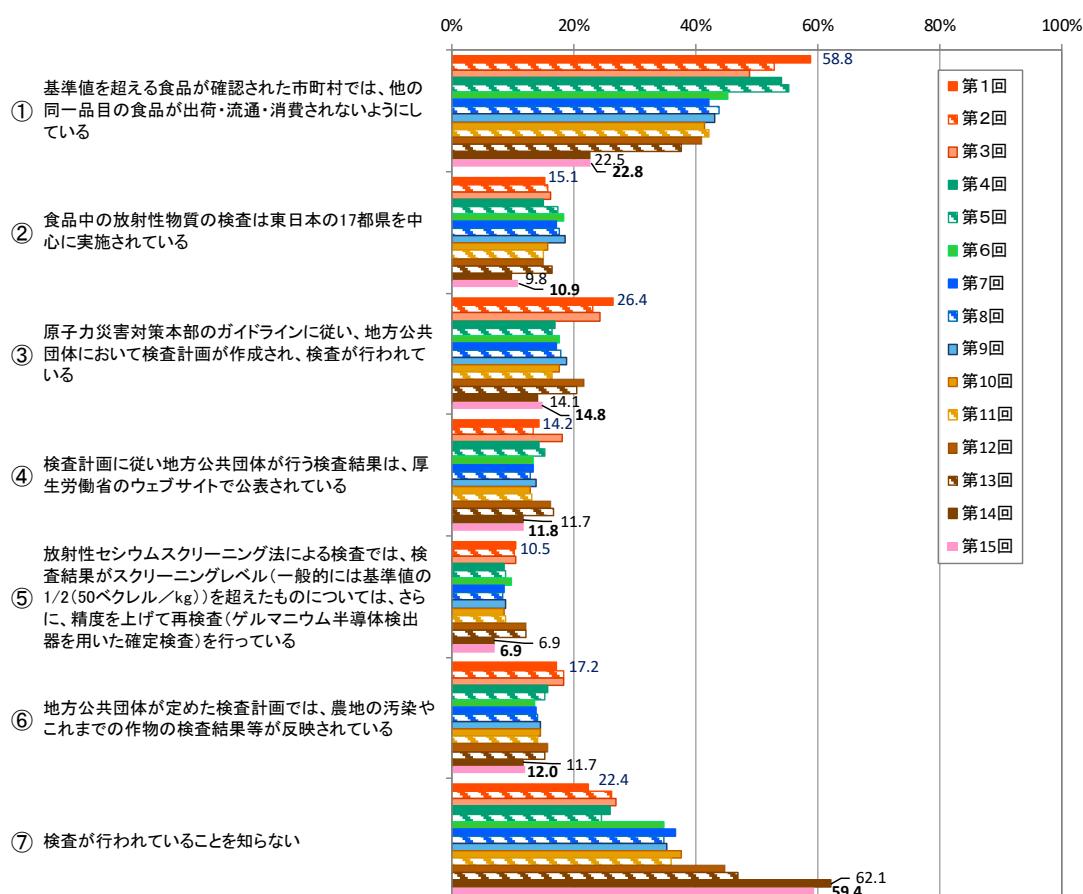
	項目	人数(n)	割合(%)
1	乳幼児がいる	679	13.1
2	小学生がいる	531	10.3
3	中学生がいる	278	5.4
4	高校生又は高校生相当の年齢の方がいる	291	5.6
5	本人が65歳以上又は65歳以上の方がいる	887	17.1
6	本人が妊娠中又は妊娠中の方がいる	74	1.4
7	上記に当てはまる本人・同居者はいない	2,901	56.0

2 経年推移による結果

(1) 食品中の放射性物質の検査に関する知識

「問 食品の放射性物質の検査の情報について、あなたが知っていることをお答えください。」(複数回答)

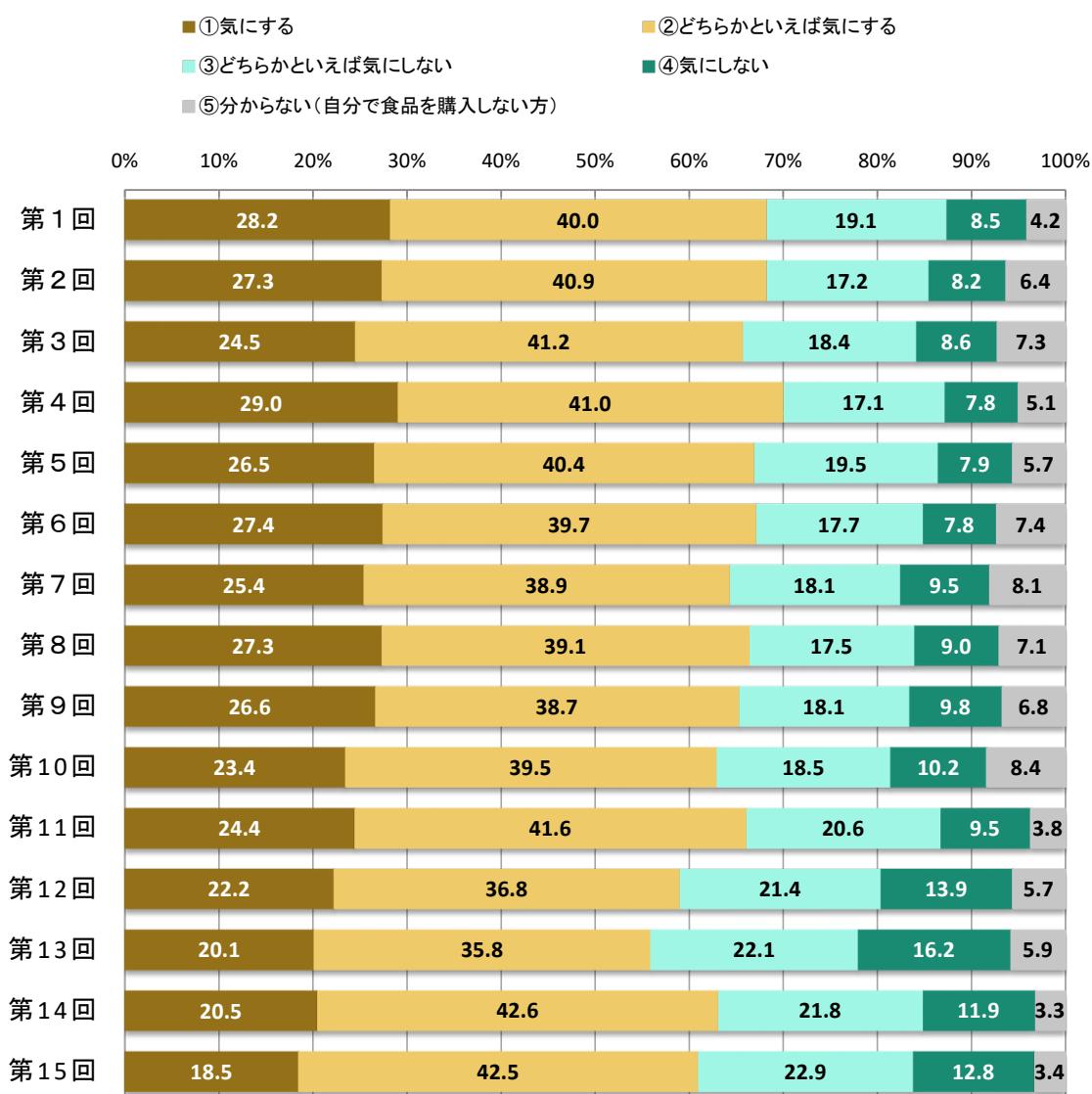
食品中の放射性物質の検査については、いずれの項目についても、昨年と比べて大きな変化は見られなかった。



(2) 食品の産地を気にする度合い

「問 あなたは、普段の買物で食品を購入する際に、その食品がどこで生産されたかを気にされますか。」(単回答)

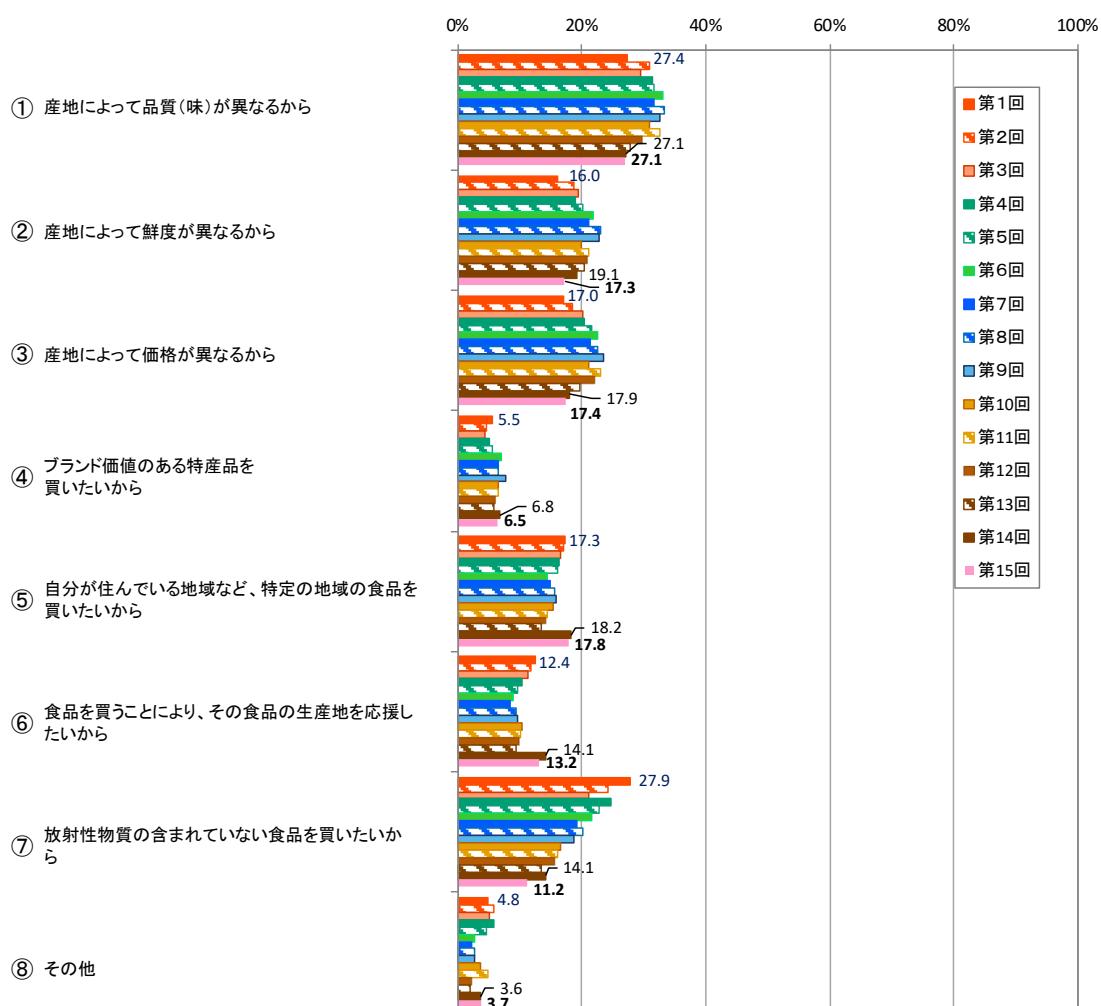
食品購入時に、食品の産地を「①気にする」又は「②どちらかといえば気にする」との回答者の合計は約6割、「③どちらかといえば気にしない」と「④気にしない」との合計は約3割と、いずれも昨年度と同様の結果であった。



(3) 食品の産地を気にする理由

「問 (2)で、普段の買物で食品の生産地を「①気にする」又は「②どちらかといえば気にする」と回答された方にお聞きします。あなたが、その食品がどこで生産されたかを気にされるのは、どのような理由からでしょうか。」(複数回答)

(2)の問で、産地を「①気にする」又は「②どちらかといえば気にする」と回答した人に、その理由を尋ねたところ、「⑦放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答した人は、第1回から減少傾向にあり、今回はこれまでで最小となった。その他の項目では、大きな変化は見られなかった。



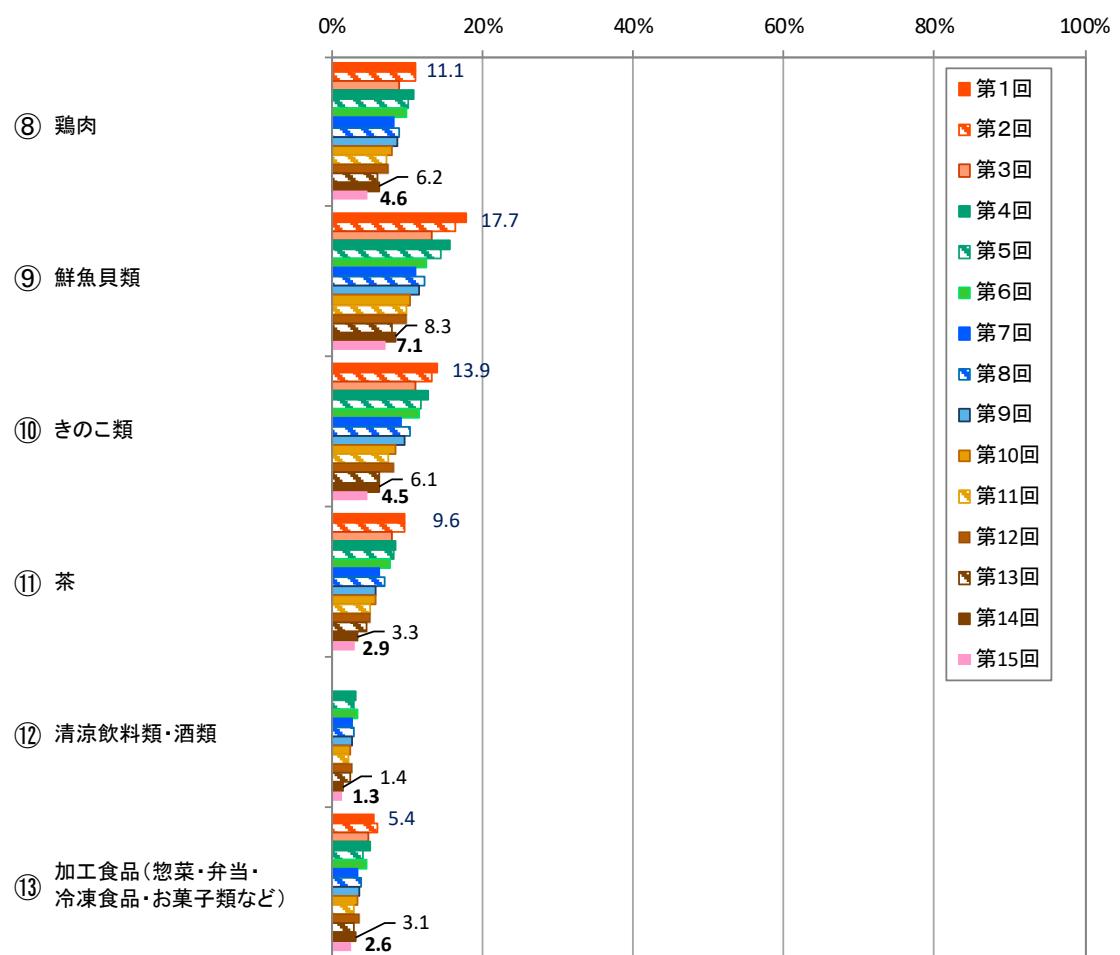
(4) 特に産地を気にする食品の種類

「問 (3)で、普段の買物で食品の生産地を気にする理由として、「⑦放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答された方にお聞きします。あなたが、特に産地に注意している食品を次の選択肢から選んでください。」(複数回答)

(3)の問で、「⑦放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答した人に、特に産地に注意している食品について尋ねたところ、全ての食品において減少傾向が継続していた。



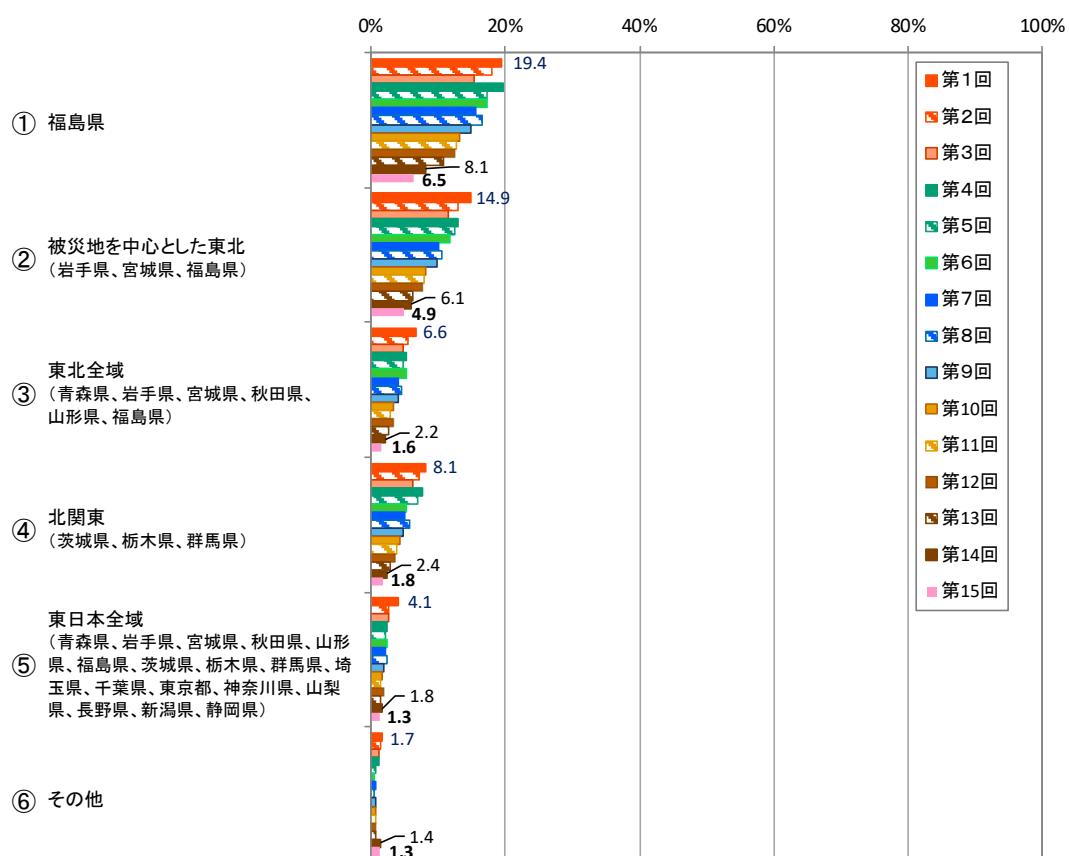
(グラフは次ページに続く)



(5) 購入をためらう食品の产地

「問 (3)で、普段の買物で食品の生産地を気にする理由として、「⑦放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答された方にお聞きします。あなたが、食品を買うことをためらう産地を次の中から選んでください。」(複数回答)

(3)で、「⑦放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答した人に、購入をためらう産地を尋ねたところ、第14回に引き続き全ての地域が減少傾向にあった。



(6) 放射線における低線量被ばくのリスクの受け止め

「問 あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど小さな低線量のリスクをどう受け止めますか。」(単回答)

低線量の放射線リスクの受け止め方については、「①基準値以内であっても少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない」と回答した人はこれまでで最小となっている。

一方で「③基準値以内であれば、他の発がん要因(喫煙、毎日3合以上飲酒、痩せすぎなど)と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる」又は「④放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、殊更気にしない」と回答した人は第14回と比較して増加している。

- ①基準値以内であっても少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない
- ②十分な情報がないため、リスクを考えられない
- ③基準値以内であれば、他の発がん要因(喫煙、毎日3合以上飲酒、痩せすぎなど)と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる
- ④放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、殊更気にしない
- ⑤その他

